

ビオトープだより第16号

会員・BAより ビオトープに関する情報を提供します。

特定非営利活動法人
日本ビオトープ協会
<https://www.biotope.gr.jp/>

1. 思いがけない場所にできたカエル達のビオトープ

北海道・東北地区委員長、主席 BA 佐竹 一秀

2013.3.11 東日本大震災の大津波にやられた仙台湾岸の防潮林ですが、クロマツが植林され順調に育ってきています（写真①）。宮城県名取市の防潮林は8年前から植林が開始され、場所によっては高さ5m以上に伸び、間伐や下枝払いが行われ始めました。

植林は2~3m盛土した上に行われ、管理用道路も設置されています。管理用道路の一部は、盛土面より低い場所にあり、雨水等により春先から秋頃までは冠水しています（写真②）。

そこに春先、3月下旬ごろになるとニホンアカガエルが卵（写真③）を産みに集まります。その後オタマジャクシ（写真④）、手足が生え子ガエルになり、上陸して植林地内で生活しています。他にはアマガエル、ウシガエルの姿、声を見聞きします。

大津波による海水の流入によりカエル類は大打撃を受けました。さらに2,3m盛土された場所ですので、植林初期にはカエル達はいなかったはずですが、また、震災前も防潮林内の環境を考えると生息は厳しかったのではと思っています。それが防潮林の再生により、新たな産卵、生息場所が作り出されて今に至っています。今後の推移を見守っていきます。



写真① 植林された防潮林の状況(2022年4月)



写真② 管理用道路(水が溜まっている)



写真③ ニホンアカガエルの卵塊



写真④ ニホンアカガエルのオタマジャクシ

2. 岩手県大槌町「ミズアオイの池をみんなで守る会」の発足

副会長・主席 BA 野澤 日出夫

協会誌で度々取り上げて来た大槌町のミズアオイ保護活動について、遊水池整備 2 年目の攪乱作業を 4 月 23 日に行いました。このミズアオイについて改めてご紹介すると、5mの防潮堤で守られた大槌町の中心部は、豊かな湧水で生活している。2011 年 3 月 11 日震度 5 の地震のあと、(地区によって) 10.7~19.1m の大津波に襲われて街は壊滅、町人口の 8%以上もの死者・行方不明者の甚大な被害となった。その瓦礫だらけの街跡の湧水湿地に突如紫色の花が咲き被災住民は驚かされた。水田に農薬が多量に用いられる 1950 年代以前のミズアオイであることを平塚明協会顧問が解明され、以来ピオ協としてその保護活動を支援している。



被災前街並(×は津波浸水)



津波により壊滅した街

《ミズアオイ池の攪乱作業・木道設置作業》



ミズアオイは花期が終わると折れて水中に入り、多くの種子が水面に放出されて広く拡散すると水底に沈みます。自然の状態ですと発芽率が低く年々発生は衰退して行きます。昔は水田に多く見られたミズアオイは、田植え前の代掻きで攪乱されて発芽が促進されていたものと思われ、同様の水底の攪乱によって古い埋土種子も発芽が促進されます。

この攪乱作業と 8 月末~9 月の開花時に間近に観察できる木道づくりを多様な参加者の協力で実施しましたので以下はその状況です。

主催者：岩手県立大学総合政策学部 島田研究室 (島田直明准教授・辻盛生教授)

共催者：ミズアオイの池をみんなで守る会(代表日澤良一氏)・大槌町教育委員会

大槌高等学校 はま研究会・大槌環境保全の会・日本ピオトープ協会・環境パートナーシップいわて・三陸自然学校大槌

実施日：2022 年 4 月 23 日(土) 9:30~15:30

場所：岩手県大槌町 郷土財活用湧水エリア ミズアオイ湧水池

参集者：大槌釜石地域住民・県立大槌高校生徒・大槌町役場職員・岩手県沿岸広域振興局

・東京大学沿岸海洋センター・イオン環境財団・環境パートナーシップいわて・岩手県立大学学生・日本ピオトープ協会・及び主催共催の関係者 40名

1. 岩手県立大学 辻盛生教授・島田直明准教授から、ミズアオイに関するレクチャー
2. 「ミズアオイの池をみんなで守る会」発足宣言（臼澤良一代表）参加全員賛同
3. ミズアオイ池の攪乱作業と池周囲へのヤナギ挿し木（魚付き林効果）
4. ミズアオイ湧水池の見学用木道づくり作業

《作業風景》



三陸鉄道大槌駅と遊水地



湧水水路へのヤナギ枝挿し木



大槌高校生が大活躍



完成後のチェック

《今後の計画》

7月予定 ミズアオイの生育観察とミズアオイを食べる会 開催

（大槌町元料亭のご主人協力メニュー）

8月～9月予定 三陸鉄道で三陸のジオパークを体感する（参加全員にタブレット活用でレクチャー）

- ・三陸のジオパークについて（三陸ジオパーク推進協議会）
- ・三陸の海について、海の学習室見学（東大海洋センター）
- ・海洋汚染特にマイクロプラスチックについて（海上保安庁・海洋センター）
- ・大槌町のミズアオイについて、見学会（県立大学）

パートナーシップで開催：三陸鉄道・三陸ジオパーク推進協議会・東京大学沿岸海洋研究センター

海上保安庁・岩手県立大学・岩手県環境学習交流センター

環境パートナーシップいわて・ミズアオイの池をみんなで守る会

9月予定 ミズアオイの花を觀賞する会 開催

2022年4月1日～

プラごみ削減の新法



『プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律』

(略して「プラスチック資源循環法」)



3R + Renewable

プラスチック製品を大量に生産・消費・廃棄せず、
環境負荷を減らす持続可能な社会を実現するための法律です。

えらんで

エコなプラスチック製品を選ぼう！

プラスチック製品の環境配慮設計に関する指針が示され、環境に配慮した製品を消費者が選択しやすい社会となっています。

減らして

使い捨てプラスチックの
ごみを減らそう

ワンウェイのプラスチックの使用料を減らすため、使い捨てスプーンやストローの有料化、代替素材への切り替えなど、提供方法の見直しが義務付けられます。

リサイクル

プラスチック製品は
分別してリサイクルに協力しよう

製造業者や販売業者等によるプラスチック製品を回収する取組みが広がり、再生プラスチックを利用した製品が増えていきます。

■ プラごみ削減で目指す社会

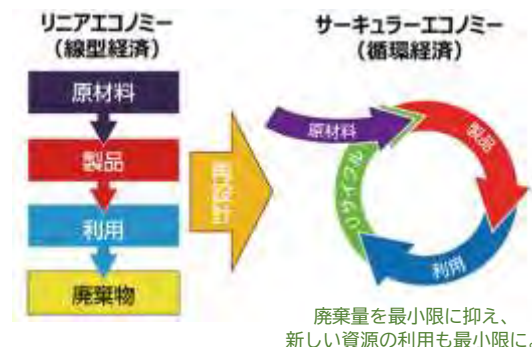
資源循環の高度化に向けた環境整備を進めることで「環境・経済・社会の三方よし」を目指していきます。

環境 サークュラー・エコノミーへの移行



■ サークュラー・エコノミー（循環経済）

循環経済とは、これまで経済活動の中で廃棄されていた製品や原材料などを「資源」と考え、リサイクル・再利用などで活用し、資源を循環させるシステム。



『プラスチックは、えらんで、減らして、リサイクル』積極的に取り組みましょう！